



地域とともに南海トラフ大地震に備える ～防災リーダーの育成を図る～

三重県立南伊勢高等学校(南勢校舎)
校長 井ノ口 誠充



1 はじめに

本校南勢校舎は、三重県南部熊野灘沿岸のリアス海岸の奥の海沿いに立地しており、東日本大震災の被災状況から、南海トラフ大地震に伴う大津波が発生した場合、甚大な被害が予想されています。また、本校南勢校舎が立地する南伊勢町は、県内で最も急速に過疎化・少子高齢化が進む自治体であり、高校生の若い力が地域防災にとって大きな存在となっています。

全校生徒数が31名という三重県内で最も小規模な県立高等学校ですが、地域・町・大学・小中学校等と連携し、さまざまな防災・減災活動に取り組んでいます。

2 東日本大震災被災地への研修

東日本大震災を契機として、平成23年7月に三重県や南伊勢町の防災担当者と本校南勢校舎の教職員が、本校南勢校舎からの避難経路・避難場所について協議しました。そして、地域住民と教職員による避難所運営の図上訓練や、災害支援活動の研修会等を開催しました。

また、平成24年度から、生徒・教員・南伊勢町役場職員等が岩手県や宮城県を訪問し、ボランティア活動や被災地研修を実施しています。令和元年度には、1年生5名全員が学校行事として「東北被災地研修」に行きました。

そして、この「東北被災地研修」で感じた思い等をまとめ、町民文化会館において町長や地域住民等に報告しました。このことは、生徒の防災リーダーとしてのモチベーションを高めるだけでなく、地域住民や南伊勢町に対して防災・減災の早急な対応の必要性を訴えかける機会になりました。



東北被災地研修の報告

3 防災教育の充実

平成25年度から、1年生の「総合的な学習の時間」の中核的テーマを防災教育として、南伊勢町・大学・NPOから講師を招き、講義やフィールドワーク等の「防災特別授業」を年間10時間以上実施しています。平成28年度には、授業を通して、携帯用非常持ち出し用具「Myゼロバック」を考案し、地元の介護福祉施設や漁業協同組合と連携して商品化しました。翌年にこの商品が新聞やテレビで紹介されると、県内外から問い合わせや

注文がありました。



防災特別授業



Myゼロバック

4 啓発活動・人材育成

平成 24 年度に、国語と美術の授業で、地域の津波に係る民話をもとにした紙芝居を作成し、近隣の小学校で防災紙芝居を開催しました。

平成 29 年度に、近隣の中学校からの依頼を受け、防災学習会として、防災士の資格を取得した生徒 3 名が講師となり、中学 1・2 年生を対象に「防災講話と防災クイズ」、中学 3 年生を対象に「避難所運営ゲーム (HUG)」を実施しました。中学校の生徒や教員からは、楽しく・理解しやすい内容であったと好評でした。後日、近隣の小学校や老人クラブ等からも防災講話の依頼がありました。

これら以外にも、地域や県内外で、本校南勢校舎の生徒・教員が防災についての発表や講話を行っています。また、本校南勢校舎を卒業後、大学の防災サークル活動や県外のボランティア活動、地域の減災活動に取り組んでいる者もいます。



防災学習会 (HUG) の講師

5 今後の展望

本校南勢校舎は、平成 30 年 12 月に三重県知事から「みえの防災大賞」を受賞し、令和 2 年 2 月には「第 24 回防災まちづくり大賞・消防庁長官賞」を受賞することができました。これらの賞の名に恥じないように、これからも、さまざまな形で地域・関係機関等との連携を深め、郷土を愛する心を育むとともに、防災・減災に対する知識や態度を身に付け、災害が発生したときには地域の一員として自ら課題や役割を見つけ主体的に行動できる地域の防災リーダーとなる人材の育成をめざしていきます。